

道肢連協

No. 404

 肢体不自由児者に温かい理解を

2026.4.30 発行

昭和51年8月17日第三種郵便物承認
令和8年4月30日発行
年4回 1・4・7・10月の30日発行

発行者

(公財)北海道肢体不自由児者福祉連合協会 会長 清水 誠一
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目

TEL 011-241-8391 FAX 011-251-5027

HP <http://www.h-doshikyo.jp>

春号



札幌（海水浴）



北見（新春の集い）



千歳（合同誕生会）



登別（クリスマス会）



根室（クリスマス会）



作品コンクール

目次

Contents

療育キャンプ・レクリエーションレポート	2-6
令和8年度の主な事業計画及び収支予算	7
第2回理事会/事務局長退任・就任あいさつ	8
第73回『手足の不自由な子供を育てる運動』	
作品コンクール開催 ほか	9

協会会員お礼	9
レクリエーションに参加してきました！	10
連載エッセー	
●NPO法ホップ障害者地域生活支援センター代表理事 竹田 保	11



療育キャンプ・自立支援研修事業 (レクリエーション) 活動報告

令和7年度の療育キャンプ・障がい児者自立支援研修事業(レクリエーション)の活動お疲れさまでした。年度は変わりましたが、前年度の活動をたくさんいただきましたので一気にご報告します。今年度もよろしくお願いいたします!!

療育キャンプ

〈登別 7/25〉

今年度もコドモックルの皆様のご協力で、療育キャンプを実施することができ嬉しく思います。

日程などで参加できない方もいましたが、数年ぶりに参加できた成人会員さんもおり、毎年開催できることにも感謝いたします。

親子はもちろんの事、いつも施設等がかかわって下さるスタッフさんの参加もあり、日常生活での注意点、車イスへの座らせ方、自分達でできるストレッチの方法など、個々それぞれの質問に専門の先生達から直接アドバイスをもらえる事はとても良い機会で、とても充実した時間となりました。本当に遠い所きていただきありがとうございました。



〈旭川 1/24 新年会〉

今年は積雪量が少なく当日も気温は低かったが雪は降らず外出できました。

夕食を兼ねての会食でした。協力者の方々にコロナ、インフルエンザの検査を行い、感染に考慮した新年会をしました。

旭川の障がい児者は重度の方が多く、冬に家族だけで外出するのが難しいのですが、協力者の力をお借りして、障がい児者に視覚・聴覚・触覚・臭覚・味覚の発達を促す経験をさせる事ができました。

多くの刺激や経験をすることで、発達につながったと思います。

〈札幌 8/5 海水浴〉

今年も小樽ドリームビーチの大浜家さんを会場に、海水浴を実施しました。

波が少々あったため遊泳区間は小さかったのですが、波打ち際でボートを使用させていただき、波に乗ってアクティブに楽しみました。

泳ぎを楽しんだ人たちは、浮き輪を利用して緩やかな波に体を任せていました。

レクリエーション

〈旭川 12/14 冬のレクリエーション〉

今年は天気に恵まれ、参加者が来やすく欠席者もなく良かったです。

協力者の方々も積極的に声をかけ支援してくれて助かりました。

障がい児者も楽しく自分のやりたいブースを回り、自分の力で景品を取ることが出来ました。

今年は参加者の家族同士が交流でき、悩みや困り事を相談することができました。

学生さんもとても勉強になったと言っていました。

昼食は山内会長が隠し味を加えた豚汁を美味しくいただき、午後はすいか割りを行いました。棒のコントロールと力入れ方が難しかったようですが、ボランティアの皆さんと一緒に、“これぞ夏！”を満喫しました。

とても暑い日でしたが、コカ・コーラさんのご支援のおかげで、水分補給もしっかりでき、けがも事故もなく終了できました。



〈札幌 10/11 二十歳を祝う会〉

今年も社会福祉法人札幌会を会場にお借りして、二十歳を祝う会を開催しました。

華やかな着物姿や凛としたスーツ姿に、会場は少し緊張感のあるいつもと違う空気になりました。

道肢連協清水誠一会長はじめ札幌市秋元克広市長など、ご来賓の皆様には祝辞をいただき、たくさんの方から祝福を受け、二十歳の節目をしっかりと受け止めている様子でした。

式の最後には一人ずつ会場の皆様にお礼やこれからの展望など発表し、しっかり役割を果たしました。

記念撮影のあとはアトラクションで、お世話になった特別支援学校の先生方によるデキシー

バンドの演奏や歌を聴き、一緒に歌も歌いました。

また、事前に小樽高等支援学校木工科の皆さんが作ってくださったお祝いの言葉の額や、当会成人部の中島さんを講師にお迎えして、会員で作成した装飾もとてもきれいで、二十歳を祝う会にぴったりで華やかになりました。

〈札幌 12/7 クリスマス会〉

令和7年度のクリスマス会は、市立札幌北翔支援学校屋内運動場を会場に、市立札幌新川高校吹奏楽部の生徒さんによるクリスマスコンサートと、北海道科学大学の相羅（さがら）さんが参加していただき、盛大に開催できました。

クリスマスコンサートはたくさんの生徒さんが参加していただき、2部構成で行われました。

クリスマスらしい選曲を楽器演奏に加えて歌や踊りのパフォーマンスで会場をクリスマスムードに盛り上げていただきました。

休憩時間には楽器体験もさせていただき、珍しい楽器に触れるなどして、その音色に会員の皆さんは終始楽しそうでした。

よさこいソーランはよさこいソーラン2025で大賞を受賞した北海道科学大学のよさこいチーム～相羅～の皆さんが演舞を披露してくださいました。若さ溢れる力強い踊りに参加者の皆さんはくぎ付けで圧倒されていました。

参加者みんなで踊れるように振り付けを丁寧に教えていただき、相羅の皆さんと会場の皆さんで楽しくよさこいを踊ることもできました。障がいあるなしに関係なく参加できるよさこいに、会場は大盛り上がりでした。

そして、札幌西ライオンズクラブの皆様には、

今年もサンタクロースになっていただき、参加者たちへプレゼントを届けてくれました。家族で参加してくれたきょうだい達にももちろん、プレゼントが届きました。



今回のクリスマス会も飾りつけや運営、司会などを会員の皆さんがサポートしてくださいました。

これからも少しずつ助け合って行事に取り組めるよう、工夫をしていきたいと思ひます。



〈土別 1/18 新年昼食会〉

今年も多くの方が参加出来た事を嬉しく思ひます。

ボランティアさんの積極的な協力に感謝しつつ、障がい児者、家族も非日常を楽しみました。

笑顔あふれる集いになりました。



〈室蘭 10/12 お祝い会〉

今年18才の誕生日1名（来春高校卒業）のお祝いの会を開きました。

会員参加者でお祝いし、交流を深めました。会として学生が来年4月からいなくなり、寂しくなります。

当日は参加者が体調不良で欠席になりましたが、参加したみなさんは、近況報告をしながら昼食をとり、ゲームで親も子も体を動かし楽しく過ごしました。くじ引きではどんなものが当たるのか?!盛り上がりました。



〈千歳父母の会 12/06 クリスマスコンサート〉

今年は町内会館を借りて実施しました。

集まりやすい場所という事で、地域の方を始め、敬老会の方にも多く来場いただき、いつもの倍以上の方に演奏を聴いてもらう事ができました。

最後の曲はマツケンサンバ、障がい者がいつも踊っているの、前に出て、キラキラの棒を持ち、会場全体で、皆で歌って盛り上がりました。

高齢者、障がい者、地域の皆さんに普段の活動と重度の子どもでも参加できる事を見てもらってとても良かったです。音楽も最高でした。



〈千歳 1/27 合同誕生日会〉

今年の合同誕生日会は、回転寿司ならぬ自分でネタを選んで乗せる!フルーツポンチの具材を切る!で悪戦苦闘です。

選ぶことも時間がかかります。包丁を持つのも重いし、切るのも力があるので大変でした。

ケーキもショートケーキを丸く並べて、リボンをかけてロウソクを立てるのもやっと。

しかし、いつも出来た物しか見ていないので、苺を食べるために苦労がある事がわかって、大

変ながらとても美味しく喜んで食べました。

寸劇のおおきなかぶでは、皆で抜き、演奏会は歌って踊って(マツケンサンバ)のりのりです。

一年のライドショーで振り返り、皆元気に一歳年をとりました。



〈登別 7/5 果物狩り(夏)〉

毎年恒例の果物狩りですが、今年は参加の会員もボランティアさんも少なく少し寂しかったのですが、お天気には恵まれたので、2組の家族で楽しむことができました。

太陽に照らされて真っ赤につやつやに光り、鈴なりになっているサクランボは本当においしそうで、皆で採る量に注意しながら、あっちの木の方が甘い、こっちの木の方が大きいなど話しをしながら食べました。

子供にも種を取りつぶして食べたら少し酸っぱいものあり、しかめっ面などして笑いあったり、楽しい時間を過ごしました。

〈登別 10/4 果物狩り(秋)〉

夏の果物狩りに参加できなかった会員の為に、今年は秋の果物狩りも実施しました。がしかし、結局体調不良などから残念ながら夏と同じ参加でしたが、今回はボランティアさんが来てくれたので、夏よりも少し賑やかで子供達も喜んでいました。やはり親以外との交流は良いですね。

ブドウにリンゴにプルーンと秋の果物狩りは種類が色々あって、楽しみがいっぱい！！中でも子ども達の顔ぼどもある大きなリンゴが車椅子の高さに生えていて、重たいリンゴを自分達で収穫できる楽しみも味わいました。夏より更に食べ過ぎ、買い過ぎでしたが楽しかったです。

〈登別 12/6 クリスマス会〉

今年のクリスマス会も皆さんの希望でモルックやゲームをしました。

モルックはチーム対抗で、車イスの子供達には若干ルールを軽めにして景品を目当てに、皆で力を合わせた点の取り合いや、取りすぎて元に戻ってしまうもどかしさなどで、たくさん笑い合いました。

その他役員が準備してくれたピンポンゲームや、ビンゴ、つかみ取りなどを行い、沢山の景品を持ち帰り楽しい一日となりました。久しぶりに昼食も食べ、近況報告なども出来て、とても充実した時間を過ごせました。道肢連協の太田さんも遠いところありがとうございました。

(また訪問させてくださいね♪事務局太田)

〈北見 2/1 新春の集い〉

・今年も新年会を開催し、仕出し弁当のランチを食べて、ハンドアーチェリーなどを楽しんだ。

・懇親会を通じて参加予定の「ふれあい広場」の日程・概要の共有、場所の相談などができた。

・次回療育キャンプの案内などができた。

・去年より参加者を増やして開催ができた。



〈紋別 12/13 クリスマス会〉

今回初めて、ケーキ作りを体験しました。スポンジに生クリームを塗り、果物やチョコチップなどを挟んだり指先を使い、力加減に気をつけながらケーキを作成しました。出来上がったものはその場で食べたり、持ち帰ったりしました。

作ったケーキの中には独創的なものや、周りにお菓子を使ったりと、アイデアを出しながら、自分たちのケーキを作りました。皆楽しくケーキ作りをしました。



〈根室 12/14 クリスマス会〉

今回はボランティアさんの協力で、餅つきをするなど、少し早いお正月気分を味わえました。ケーキ作りは経験があるのでスムーズに進み、餅つきはボランティアさんのおかげで、本格的な大福を作りました。楽しい1日を過ごすことができました。



〈幕別父母の会 6/7親睦交流会〉

今回講師に教えてもらいながら、初めてのゲームをしました。

簡単なのになかなか的に当たらず、前に行ってしまったたり、軽い汗をかいて楽しい時間を過ごしました。

体を動かす事は久しぶりだったので、大変有意義な一時でした。

〈幕別父母の会 2/15-16 一泊研修〉

一年に一度の会員が集まり、食事を取りながら、発達支援センターの牧田所長を迎え、幼児の日常の流れを聞き、私達子供の頃に比べて、沢山の支援がある事を学びました。

今後は子供達とも交流を持ちたいと思いました。

〈帯広父母の会 2/21 新年会〉

今年は去年のような大雪もなく、参加者が集まりました。

動物なのに…釣り???や、ヒントを頼りに自分は何になっている?等、頭脳を使うゲームを行いました。ビンゴでは同じ数字が出てくるハプニングもありましたが、声を出して笑って、みんなで楽しみました。



〈函館 2/26 体の整え方を学ぶ会〉

・比較的体を動かせる状態の障がい者3名が参加、保護者とともに簡単なヨガを体験。アロマや講師の優しい声でリラックスし、終わった後は体がスッキリした。

・直接指導を受けて行うヨガは、わかりやすい説明と心地よい声、音楽、アロマに癒され身体も心もほぐれた。

・嚥下マッサージを行ってみて、唾液の分泌が促されるのが良くわかり、我が子にも手抜きせずにやってあげようと思った。

・食事のお話を聞いて、全介助の我が子に食べ物を見せて準備させることを意識して食べさせたいと思った。

・養護学校の先輩母たちに、いろいろな事を聞くことができ嬉しかった。まだまだ教えてほしい事が出てくると思うので、次回も参加したい。



「令和8年度における事業計画及び収支予算」について

療育・自立支援事業、研修交流事業及び情報発信・啓発事業の各事業については、例年どおり実施することとし、全道肢体不自由児者研究大会（全道大会の翌年開催）については、11月頃の開催を予定しています。本年度の予算について、各実施事業については昨年度と同程度の額と、協会運営に係る事務費等の増額を見込んで算定しました。

【主な事業計画】

1. 療育・自立支援事業

(1) 作品コンクールの実施

「手足の不自由な子どもを育てる運動」の取組として、手足の不自由な子どもの作文、詩、図画、書道等を募集し審査の上、優秀作品の表彰・一般展示を行う（令和9年1月下旬）表彰は49作品 【1,414千円】

(2) 育英奨学金

岩田・アメフト育英基金から、肢体不自由であって経済等の困難な事情にある特別支援学校高等部等の高校生に奨学金を交付。（募集期間5月～7月 交付交付予定13人、一人3万円。 【390千円】

(3) 療育キャンプ

在宅の障がい児者及び家族が、専門機関の医師やPT、OT等医療職から、日常生活や社会活動における正しい知識や訓練方法等の指導を受けるとともに、参加者の研修や交流を深めるためを父母の会に対して助成。開催予定8地区 【2,663千円】

(4) 自立支援研修事業

肢体不自由児者の自立と社会参加、地域住民との交流及び相互理解を深めるため、自立支援研修活動を実施する父母の会等に対して助成。開催予定延数30回 【2,405千円】

(5) ホームヘルパー活動

障がい児者の自立援助及び家族の負担軽減のため、協力員ヘルパーを家庭に派遣する父母の会に対して、活動の経費及び協力員ヘルパーを対象とする研修会費用を助成。派遣回数17件 【146千円】

2. 研修交流事業

(1) 父母の会会長・事務局長会議（研修）

協会・父母の会の活動に資するため、福祉制度・施策や先進事例等の研修を行い、あわせて、活動における諸課題の解決に向けた意見・情報交換を行う。（年2回 令和8年7月12日及び11月1日予定及び）

※11月の第2回目の開催は、全道肢体不

自由児者研究大会と兼ねて開催

(2) 全道連北海道ブロック地域指導者養成研修会

父母の会の活動を担うリーダーを育成し活性化を図ることを目的として、全道連が主催する全国7ブロック別研修会での北海道ブロックとして開催する。（令和8年7月11日～12日予定）

(1)+(2) 【527千円】

(3) 通園施設職員等研修会

肢体不自由児通園施設、特別支援学校等の職員を対象に障がい児療育に係る知識、技術の修得・向上を目的とする研修会を、旭川こども総合医療センターの協力により開催。（令和8年8月頃予定）【453千円】

3. 情報発信・啓発事業

(1) 「手足の不自由な子どもを育てる運動」の推進

日本肢体不自由児協会が作成する「絵はがき」、「クリアファイル」を頒布・寄付金を広く道内の団体・法人、企業、行政機関等に募ることを通じて肢体不自由児者への理解と啓発に努める。 【950千円】

(2) 会報の発行（年4回） 【671千円】

4. 協会運営、財源確保

理事会3回（4月、7月、3月）、定時評議員会（5月）、監事監査（4月）を開催。

協会の活動への理解を広げ、運営資金の支えとなる協力会員をより多く募るとともに、「手足の不自由な子どもを育てる運動」の絵はがき等による募金活動や、清涼飲料水のチャリティ自動販売機設置・寄付還元金の確保・促進の取り組みを父母の会と連携して協会の活動への理解を広げ、運営資金の支えとなる協力会員をより多く募るとともに、「手足の不自由な子どもを育てる運動」の絵はがき等による募金活動や、清涼飲料水のチャリティ自動販売機設置・寄付還元金の確保・促進の取り組みを父母の会と連携して進める。

令和7年度第2回理事会の開催

令和8年度第2回理事会の開催

令和8年3月19日（木）開催

理事8名・監事2名 出席

①令和8年度事業計画

②令和8年度収支予算（一般会計・特別会計）

について、審議の結果承認されました。また、

報告事項については、

①令和7年度事業実績見込

②令和7年度一般会計、特別会計収支決算見込

③令和7年度療育事業（作品コンクール）

④第58回全国・第34回全道（札幌）大会の

決算について説明し、了承されました

退任の事務局長からの挨拶

令和8年3月31日付けで事務局長を退任することとなりました。

令和6年4月からの引継の際、肢体不自由児者の福祉大会が2年連続で開催する予定であることの報告がありましたが、就任直後から通常業務に加え、全道大会に向けた準備が始まりました。

そして、翌年の全国大会などで、あっという間に2年が経過していきました。

本来ですと、各市町の父母の会で開催する療育キャンプや自立支援研修事業のイベント等と一緒に参加し、父母の会の会員の皆様や肢体不自由児者の方々との交友を深めるべきでしたが、なかなか現地に赴くことができなかつたことが残念なところでした。

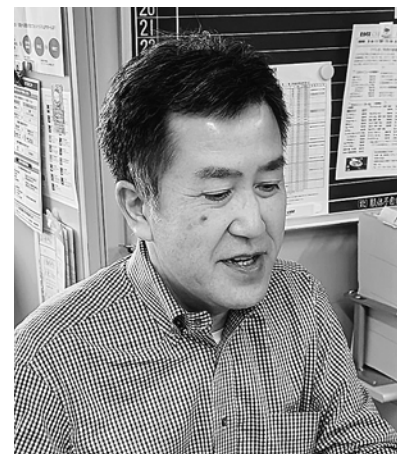
業務の実施当たり、判断に迷った際には、清水会長を始め、橋本副会長、岡田副会長から貴重なご助言を伺いながら進めることができました。

2年間でしたが、協会三役様及び事務局主任の支えがあり、業務を執行することができたことに対しお礼と感謝を申し上げます。（村田 薫）

新しく就任された事務局長から挨拶

4月から北海道肢体不自由児者福祉連合協会事務局長として勤務しております高橋 茂紀（たかはし しげのり）と申します。3月までは北海道職員として勤務しておりました。道職員としては、道立の重度身体障害者更生援護施設（当時）であった肢体不自由者訓練センター（2006年廃止）での勤務を振り出しに、道庁、振興局、保健所で保健福祉に関わる仕事を担当してきました。

これまでの経験を活かし、協会の運営や各種事業の実施などに取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



第73回

『手足の不自由な子どもを育てる運動』作品コンクール開催



2月2日・3日（2日間）道庁本庁舎1階において、入賞作品49点（応募数総184点）を展示しました。（手足の不自由な子どもの部 作文・詩2点、図画13点、書道8点、手芸・工作13点、友情の部 図画13点）

今年は雪が降り気温も低い両日でしたが、入賞された生徒さんやご家族が何人も来場され、作品の前で記念撮影をされていたり、来場された方からあたたかい感想もいただきました。

次回もたくさんの作品をお待ちしております。



〈来場された方の感想〉

- ✎ 不自由なりに一生懸命に作品に取り組んだ事がみてとれました。生き生きとみずみずしい感性がうらやましく、オバさんも何か作ってみたい！！と思わせてくれる…そんな作品にあふれていました。
- ✎ 子供たちの素敵な感性にとても心あられる思いです。どれもステキな作品で、見ていてもいやされました。
- ✎ 友人が学校で（養護学校）先生をしています。何だかワクワクするような作品ばかりで先生と生徒さんで取り組んでいる姿が目につかびました。
- ✎ 書道の優秀作品に目を奪われました。



協力会員になっていただき
ありがとうございます



【特別会員】

清水 誠 一 当協会会長

【賛助会員】

高橋 茂 紀 当協会事務局長

【普通会員】

伏木田 理 恵 当協会事務局
太田 亜 希 当協会事務局
(敬称略)

レクリエーションに参加してきました!!

父母の会の皆様、いつもお世話になっております。事務局の太田です。

この度、12月13日に登別父母の会で行われたレクリエーションに参加させていただきました！地震の影響でJRが突然運休になったり、出発前から波乱の旅になりそうな予感です。みどりの窓口で何とか違うJRに変えてもらい出発しました。

会場の「しんた21」に到着し、準備のお手伝いをするつもりでしたが、すでにゲームやプレゼントなどほとんどの用意がされていて、出番なしでした。青木会長の挨拶で会が始まり、モルックに混ぜてもらいましたが、初めてのモルックは全然うまくできず、混ぜてもらったチームの足を引っ張ってしまいました。ごめんなさい。レクで何度かやっている皆さんはさすがにコツをつかんでいるのか、上手！！

お父さんお手製の補助具（こちら年々バージョンアップしていました！）を使って児者さんも参加したり、なかなか盛り上がるので、モルックはレクにおすすめです！

その後、皆さんと歓談し、障がいのある方がJRで座席指定を変更したりするには、まだまだ時間や締切の制約、駅よっての対応の違いがあるというお話を聞いたりしました。

その後、旭川へ移動し、14日に行われた旭川父母の会のクリスマス会に参加させていただきました。

こちら会場「おびった」については、準備が完了していて、参加するみなさんが来るのを待つばかりでした。感染対策として、おびったの広い体育館で行われていました。

会場のお祭りブースも、参加児者さんのクリスマス仕様の名札も、ボランティアさんが全て用意くださったとの事で、本当にありがたい事だなと思いました。父母の会役員の皆さんも、ボランティアさんも、参加してくれた皆さんに喜んでもらえるように汗をかきかき走り回っていました。参加されたご家族もクリスマスプレゼントを受け取って楽しそうに帰られたのが印象的でした。

年が変わって、2月、今回は函館父母の会のレクリエーションにお邪魔しました。

事務局長の後藤さんが、普段頑張っているお母さん達の癒しにとヨガを企画してくださいました。隅っこで参加させていただきましたが、久しぶりのヨガは運動不足の体にはヨロヨロフラフラしてしまい、じんわり汗ばむくらいでした。ヨガの講師の先生が瞑想中に「毎日がんばっている自分をほめてあげてください」というやさしい声に、毎日頑張っているお母さんたちにとっても良い癒しになったのではないのでしょうか。その後の言語聴覚士の方の「おいしく健康に食べるために」という勉強会も誤嚥の仕組みなど自分にも役に立つお話が聞けました。亀田交流センターにもあると聞いていた福祉の自販機も見ることができました

どの父母の会のレクリエーションも、事務局の方の用意と運営があつての事と感心させられてばかりでした。いつも家の事やお仕事で大変な中、レクリエーションを企画してくださってありがとうございます！！

突然の訪問でしたが、温かく迎えて下さりありがとうございました。レクの写真を撮ってほしいなどありましたら、お手伝いに参上しますので、道肢連事務局までお声掛けください！



- NPO法人ホップ
障害者地域生活支援センター

代表理事 **竹田 保**

近年は、桜の開花が早まる年が増えています。温暖化との関係で心配されることも多く、自然の変化を手放しで喜べない面もありますが、私たち重度の障がいのある人にとっては、寒さの厳しい時期が短くなり、外に出やすい期間が長くなることに助けられる面もあります。冬の間は、外出そのものが大きな負担になります。春になって桜を見に出かけ、季節の移ろいを感じられることは、生活に彩りを与え、社会とのつながりを感じる大切な機会でもあるのだと思います。

春はまた、進学や就職など、新しい生活が始まる季節でもあります。学ぶこと、働くこと、自分の進む道を選ぶことは、誰にとっても大切なことです。ただ、私たちにとっては、そこに「支援」という大きな要素が加わります。どこで学ぶのか、どこで働くのかという選択は、本人の希望や努力だけで決まるものではなく、その地域で必要な支援が受けられるかどうかにより大きく左右されます。

制度も少しずつ前に進んできました。札幌市では令和6年4月1日から、重度訪問介護利用者を対象に、大学等への通学や大学等の敷地内での身体介護などを支える「大学修学支援事業」が始まっています。これは、重度障がいのある学生が学び続けるために必要な支援体制を、大学側が十分に整えられるまでの間、通学や学内での支援を行う仕組みです。国でも、「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」が令和2年に創設され、通勤中や職場で必要な支援を行う市区町村事業として、各地で導入が進められています。制度の上では、重度障がいのある人が学び、働くことを支える道が、以前より広がってきたと言えます。

けれども、実際には「制度がある」ことと、「安心して使える」ことは同じではありません。

大学修学支援事業にも利用対象者や大学側の要件があり、就労支援のほうも自治体の事業と企業側の助成制度との組み合わせが必要になるなど、仕組みは決して単純ではありません。厚生労働省の調査でも、自治体ごとの運用の違い、サービス資源や人材の不足、相談支援体制の不十分さなどから、必要な支援につながることで自体が難しい実態が示されています。制度は前に進んでいても、その内容が十分に知られていない、手続きの複雑さなど利用の広がりが追いついていない面もあると思います。

もちろん、本人の努力や工夫は大切です。しかし、重度障がいがある場合、努力や自助だけではどうにもならないことがあります。必要な介助者が見つからない、地域によって使える制度が違う、相談先が分かりにくい、といった問題は、本人が頑張るだけで乗り越えられるものではありません。だからこそ、支援が足りないときには、その困りごとを周囲にどう伝えるのかも大切になってきます。

自分に必要な支援を求めることは、ときに「わがまま」と受け取られてしまうことがあります。けれども、学びたい、働きたい、住みたい地域で暮らしたいという願いは、誰にとっても自然なことです。そのために必要な支援を求めることまで、遠慮しなくてよいはずですが、ただ、理解してもらうためには、伝え方の工夫も必要です。何に困っているのか、どの場面で支障があるのか、どのような支援があれば安心して通学、通勤、生活ができるのかを、できるだけ具体的に伝えることが、家族や学校、職場、相談支援専門員、行政の理解につながります。上手に伝え、理解してもらう努力は、決して自分勝手になることではなく、必要な支援を現実につなげるための大切な力なのだと思います。

春の桜は、新しい始まりを感じさせてくれます。その門出が、障がいのある人にとっても希望あるものとなるように、制度がもっと分かりやすく使いやすくなり、困りごとの声がきちんと受け止められる社会であってほしいと思います。そして私たち自身も、必要なことを遠慮なく、けれど丁寧に伝え合える関係を広げていきたいものです。

綾鷹初!
北海道
限定

綾鷹から
北海道民のためのお茶、
「番茶」できました。



リサイクルしてね
いつもありがとう、またよろしくね

※地図はイメージです。

発行者

(公財) 北海道肢体不自由児者福祉連合協会 会長 清水 誠一
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目
TEL 011-241-8391 FAX 011-251-5027 HP <http://www.h-doshikyo.jp>

道肢連協 第三種郵便物承認
令和8年4月30日発行
(定価 1部 50円 年会費に含む)